

瀬戸・藤四郎 土に生きた

第2回

「瀬戸の原土を活かして」

自ら、瀬戸の原土を採り、
自ら、土をつくり、
自ら、その土で制作する。

2nd
SETO TOSHIRO
TRIENNALE

2016年

4月16日[土]-5月29日[日]

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)、初日は10時開館

休館日 5月10日[火]

入館料 一般500円(400円)、高大生300円(240円)

※中学生以下・65歳以上・妊婦・障害者手帳をお持ちの方は無料

※20名以上の団体は()内の人館料

主催 大せともの祭協賛会、せとものフェスタ2016実行委員会、

瀬戸市美術館、公益財団法人瀬戸市文化振興財団、瀬戸陶芸協会、中日新聞社

助成 公益財団法人せとしん地域振興協力基金



瀬戸市美術館
Seto City Art Museum

問い合わせ先
瀬戸市美術館 千489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3
TEL 0561-84-1093 / FAX 0561-85-0415

第2回 瀬戸・藤四郎トリエンナーレ

—瀬戸の原土を活かして—

瀬戸は約千年前から現在まで、連綿とやきものづくりが行われてきており、多種多様な製品を世に出してきました。これを可能にしたのが、瀬戸から産出される優秀な木節粘土・蛙目粘土です。この粘土は、耐火性や可塑性が高いのに加え、鉄分を殆ど含んでいないため、焼成しても白い素地を作り出すことが可能な、たいへん良質な粘土です。そのため、日本の各時代の人びとに好まれるやきものづくりが可能となり、日本を代表するやきもの産地となりました。

瀬戸では、陶祖800年祭開催(平成24年度～平成26年度)を契機に3年に1度、やきものづくりの原点に立ち返る機会として“自ら土を採集し”“自ら採集した土で粘土をつくり”“自らその粘土で制作する”同じ素材で競う公募展「瀬戸・藤四郎トリエンナーレ」を開催しており、今回で2回目となります。このトリエンナーレを通じ、多くの方に瀬戸の優れた粘土を知っていただくとともに、世界の陶都である、この瀬戸に数多くの陶芸家が集い、育ち、交流が生まれ、新たな陶芸文化の創造と伝統技術の継承・発展につながるものと期待しています。



審査員

いのうえ まさゆき
井上 雅之

1957年、神戸市生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科修了。1998年に多摩美術大学美術学部工芸学科助教授。2006年より多摩美術大学美術学部工芸学科教授。

からさわ まさひろ
唐澤 昌宏

1964年、名古屋生まれ。愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了。愛知県陶磁資料館(現 愛知県陶磁美術館)学芸員を経て、2003年に東京国立近代美術館工芸課主任研究員。2010年より東京国立近代美術館工芸課長。日本陶磁協会賞選考委員、日本陶芸展審査員、日本クラフト展招待審査員等を歴任。国際陶芸アカデミー会員。

こう みつこ
高 満津子

1966年、大阪市生まれ。大阪芸術大学工芸学科陶芸コース卒業。韓国弘益大学校大学院工芸デザイン学科修了。在京外国公館勤務を経て、1998年から岐阜県商工政策課セラミックパークMINO整備推進室勤務。岐阜県現代陶芸美術館学芸員(～2008)、日本陶芸展審査員(2009・11・13)。

なかしま はるみ
中島 晴美

1950年、岐阜県恵那市生まれ。大阪芸術大学デザイン科陶芸専攻卒業。多治見市陶磁器意匠研究所勤務。2003年より愛知教育大学美術教育講座造形文化コース教授(～2016)。2016年より多治見市陶磁器意匠研究所所長。毎日ID賞特選2席(1980)、国際陶磁器展美濃'89陶芸部門銅賞(1989)、国際陶磁器展美濃'95陶芸部門金賞(1995)、2009年度日本陶磁協会賞(2010)。

陶祖・藤四郎とは

「せとものまち」瀬戸を語る上で加藤四郎左衛門景正の存在を欠かすことはできません。

加藤四郎左衛門景正は通称藤四郎と呼ばれており、彼の生涯は伝記に記されています。藤四郎は貞応2年(1223)に、永平寺を創建する曹洞宗の開祖道元禪師に従って中国へ渡り、やきもの技法を学んで帰国しました。その後、製陶に適した土を求め全国を回るなかで、仁治3年(1242)瀬戸の祖母懐によい土を発見し、瀬戸で窯を開き、それが瀬戸焼の開祖となった、というものです。

瀬戸における最古の藤四郎の伝記は、延享5年(1748)の「加藤唐四郎春慶翁伝来記」で、道元禪師が密蔵院(春日井市)に折々訪れていたため、藤四郎が禅門に入り、それが縁となって道元禪師の入宋に従ったとされています。このほかにも藤四郎の生涯については幾多の書物に記されていますが、いずれも伝説の域を出ず、学術的な裏付けには至っていません。

しかし、文政7年(1824)に、瀬戸では藤四郎を祀る神社として深川神社境内に摂社として陶彦社が建立され、慶応3年(1867)には、陶祖・藤四郎を記念した高さ410cm、六角柱体の日本最大の陶製碑が、瀬戸のまちを見おろす陶祖公園に建てられています。また、昭和37年(1962)から「せと陶祖まつり」を開催するなど、瀬戸の人々は、現在まで藤四郎を瀬戸焼の開祖としてその功績をたたえています。

主催
大せともの祭協賛会
せとものフェスタ2016実行委員会
瀬戸市美術館
公益財団法人瀬戸市文化振興財団
瀬戸陶芸協会
中日新聞社

助成
公益財団法人せとしん地域振興協力基金

問い合わせ先
瀬戸市美術館
〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3
TEL 0561-84-1093 / FAX 0561-85-0415
EMAIL art@city.seto.lg.jp
HP <http://seto-cul.jp>

近隣施設のご案内

■ 愛知県陶磁美術館 **問い合わせ先 0561-84-7474**
特別企画展「沖繩の工芸 -琉球ガラス・陶磁器・染織・琉球漆器-」
2016年4月16日(土)～6月19日(日)

■ 瀬戸市新世紀工芸館 **問い合わせ先 0561-97-1001**
企画展「岸本耕平 松藤孝一」
2016年3月26日(土)～6月19日(日)

■ 瀬戸蔵ミュージアム **問い合わせ先 0561-97-1190**
歳特別展示室 企画展「明治に生まれた美麗なるやきもの-石目焼-」
2016年2月13日(土)～5月8日(日)
中央通りギャラリー 企画展「愛知県陶磁器技能士会展」
2016年4月16日(土)～7月3日(日)

■ 瀬戸染付工芸館 **問い合わせ先 0561-89-6001**
企画展「文様をまとう-瀬戸染付に咲く花々」
2016年4月1日(金)～6月27日(月)



□ JR名古屋駅から(所要時間約1時間)
地下鉄東山線「栄」へ、名鉄瀬戸線に乗り換え「栄町」から「尾張瀬戸」下車、徒歩13分。

□ 名古屋L.C. 長久手L.C.から(所要時間約30分)
東名高速道路「名古屋L.C.」「長久手L.C.」を降りて瀬戸方面へ。
グリーンロード「愛・地球博記念公園」、または「八車L.C.」まで行き、左折(北)し、瀬戸市街地へ。

□ せと赤津L.C.から(所要時間約10分)
東海環状自動車道「せと赤津L.C.」を降りて瀬戸方面へ。